

市では「富士見市男女共同参画推進条例」を制定し、性別にかかわらず、個人の能力が尊重される社会をめざして“いっぽいっぽ”取り組みを進めています。

問 人権・市民相談課 ☎271



男女共同参画キーワード

「ルッキズムとメディア」

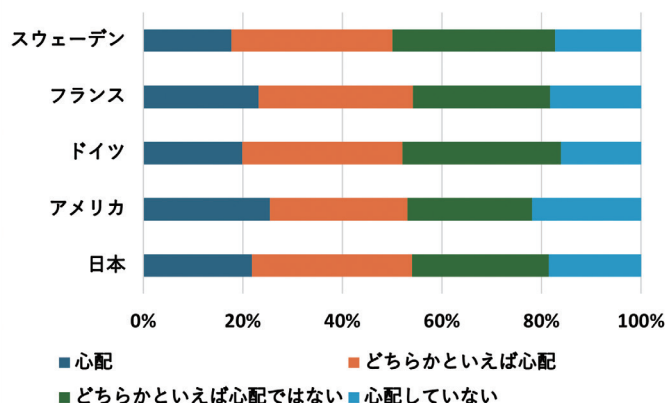
ルッキズムは「見た目(ルックス)」と「主義(イズム)」を組み合わせた造語で、見た目だけで他人を評価することや、差別的な扱いをすることを指します。就職時の外見を重視した採用や、学校・職場などで、容姿や体型など外見を理由とした不利益や差別につながる恐れがあることから、社会的な課題として議論されています。

■ メディアが与える影響

SNSや広告はルッキズムを助長させる一因といわれています。SNSを開くと、おしゃれで楽しげな人たちの投稿があふれ、外見を評価する言葉が飛び交い、無意識に「外見をほめられる＝価値がある」と刷り込まれていきます。容姿についての悩みは、年齢・性別を問わず多くの人が抱えています。日本では13～29歳の54%が容姿に「心配」を感じているという調査結果があります。

日常的に他人の目や評価を気にする状況にさらされ、容姿への過度なプレッシャーを与えられているのではないのでしょうか。美容整形、脱毛、化粧品などで、容姿や外見の不安をあおって商品・サービスを宣伝する手法を「コンプレックス広告」といいます。ルッキズムが影響し、外見を必要以上に気にすることで、過度なダイエットによる摂食障害や、美容整形を繰り返すなど、心や体に問題を抱えてしまう場合もあります。

■ 容姿についての悩みや心配ごとの有無(13～29歳を対象とした調査)



出典：こども家庭庁「我が国と諸外国のこどもと若者の意識に関する調査」(R5年度)

■ もっと自分らしくいられる社会へ

時代とともに流行は変わりますが、私たちが「魅力的」「美しい」と思う容姿は、あまりに画一的になってはいないでしょうか。現実の私たちは皆、違う容姿、違う価値観を持ち、誰一人同じではありません。メディアの中のルッキズムに気づくことが第一歩となります。自分も他者もありのままの姿を尊重し、一人ひとりが自分らしく力を発揮でき、だれもが暮らしやすい社会のあり方について考えてみませんか。

男女共同参画セミナー

その“らしさ”はどこからきたの?『メディアの中のジェンダー表現』

～SNS、広告、CM、AIの中に埋め込まれたバイアスを考える～

私たちは毎日、多くのメディアに囲まれて暮らしています。その中で描かれる「男性らしさ」「女性らしさ」、そして多様なジェンダーの姿は、どのように形づくられているのでしょうか。

セミナーでは、メディアとジェンダーの関係を分かりやすくひもときます。「気づかなかった偏り」や「これからの表現のあり方」を、一緒に考えてみませんか。

とき 8月30日(日)午後2時～3時30分(午後1時30分開場)

場所 鶴瀬西交流センター **定員** 50人(無料、申込順)

講師 小林美香氏(写真研究者) **共催** 富士見市男女共同参画推進会議、市

ほか 手話通訳あり

申込 8月3日(月)午前9時からWeb・電話・窓口で

※子どもの同伴可。託児あり(1歳～未就学児、若干名、8月24日(月)までに要予約)

問・申込先 人権・市民相談課 ☎271



小林 美香氏